

妊娠・出産を経て、新しい家族が加わると、妻・夫には母親・父親としての役割が新たに加わっていく。妊娠期から0歳児期にかけての夫婦の愛情関係は変化していくが、それにはどのようなことが関連しているのだろうか。

■夫婦関係（妻）

妊娠期から0歳児期にかけての夫婦関係の変化を見てみよう。妻の場合、妊娠期と0歳児期で同じ項目を比較したところ、ほとんどの項目で妊娠期よりも0歳児期のほうが数値が下がる傾向にある（図3-1・「あてはまる」の数値）。最も減少した項目は「配偶者といると本当に愛していると実感する」（31.9ポイントの減少）であった。他に20ポイント以上の差があるのは、「私と配偶者は、お互いのこと（仕事や趣味など）をよく話している」である。子育て以外の部分でお互いの理解を深める項目が低くなっている。

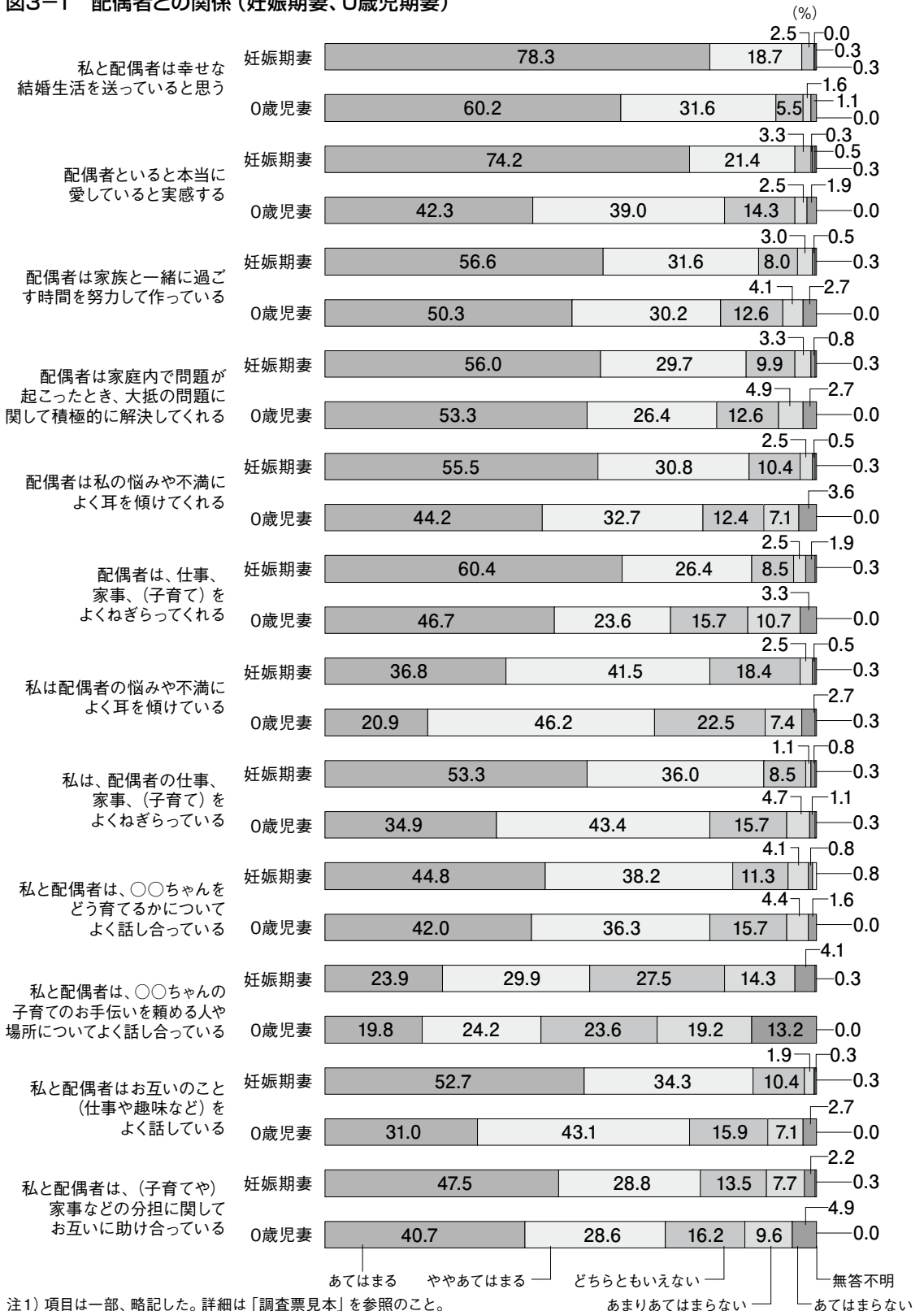
10ポイント～19ポイントの差があるのは、「私と配偶者は幸せな結婚生活を送っていると思う」「私の配偶者は私の悩みや不満によく耳を傾けてくれる」「私の配偶者は、私の仕事・家事・（子育て）をよくねぎらってくれる」「私は配偶者の悩みや不満によく耳を傾けている」「私は配偶者の仕事・家事・（子育て）をよくねぎらっている」といった項目である。お互いに対するねぎらいあいや相手の話に耳を傾けることなどについて、夫への評価も低い、自分自身への評価も低くなっており、夫婦お互いの情緒的なサポート面で減少している傾向にある。

妊娠期と0歳児期での差が10ポイント未満であったのは、「私の配偶者は家族と一緒に過ごす時間を努力して作っている」「私の配偶者は家族内で問題が起こったとき、大抵の問題に関して積極的に解決してくれる」「私と配偶者は〇〇ちゃん（おなかの赤ちゃん）をどう育てるかについてよく話し合っている」「私と配偶者は〇〇ちゃん（おなかの赤ちゃん）の子育てのお手伝いを頼める人や場所についてよく話し合っている」「私と配偶者は、（子育てや）家事などの分担に関してお互いに助け合っている」であった。一緒に過ごす時間を作る、家族の問題を解決する、夫婦で話し合いを持つ、家事・育児を助けあうことなど、夫や自分自身が家族のために行う実際の行動面においては、差が少ない傾向にある。

妊娠期から0歳児期にかけての妻の変化としては、妻から夫への愛情や家族の幸福感、お互いに対する情緒的なサポートという面では減少している傾向にあるが、実際の家族に対する夫婦の行動面の評価では、あまり減少は見られない傾向にある。

0歳児期で「あてはまる」の割合が低いのは「私と配偶者は〇〇ちゃん（おなかの赤ちゃん）の子育てのお手伝いを頼める人や場所についてよく話し合っている」（19.8%）、「私は配偶者の悩みや不満によく耳を傾けている」（20.9%）、「私は配偶者の仕事・家事・（子育て）をよく

図3-1 配偶者との関係（妊娠期妻、0歳児期妻）



注1) 項目は一部、略記した。詳細は「調査票見本」を参照のこと。

注2) 「〇〇ちゃん」は、妊娠期では「おなかの赤ちゃん」となっている。

ねぎらっている」(34.9%)である。子育ての手伝いを頼むこと自体が少ない場合は低くなる項目であることと、夫の話に耳を傾けたり、仕事や家事をねぎらう機会が減っていることは、手のかかる新生児の世話をしているこの時期特有の傾向なのかもしれない。いずれも今後の生活の変化に合わせて、どのような推移となるかに注目したい項目である。

■夫婦関係（夫）

次に夫の数値を見てみよう（図3-2）。夫の場合は、妻と同じ項目を見ると、全体的に妻と同様に妊娠期から0歳児期にかけてほぼ減少している傾向にある。

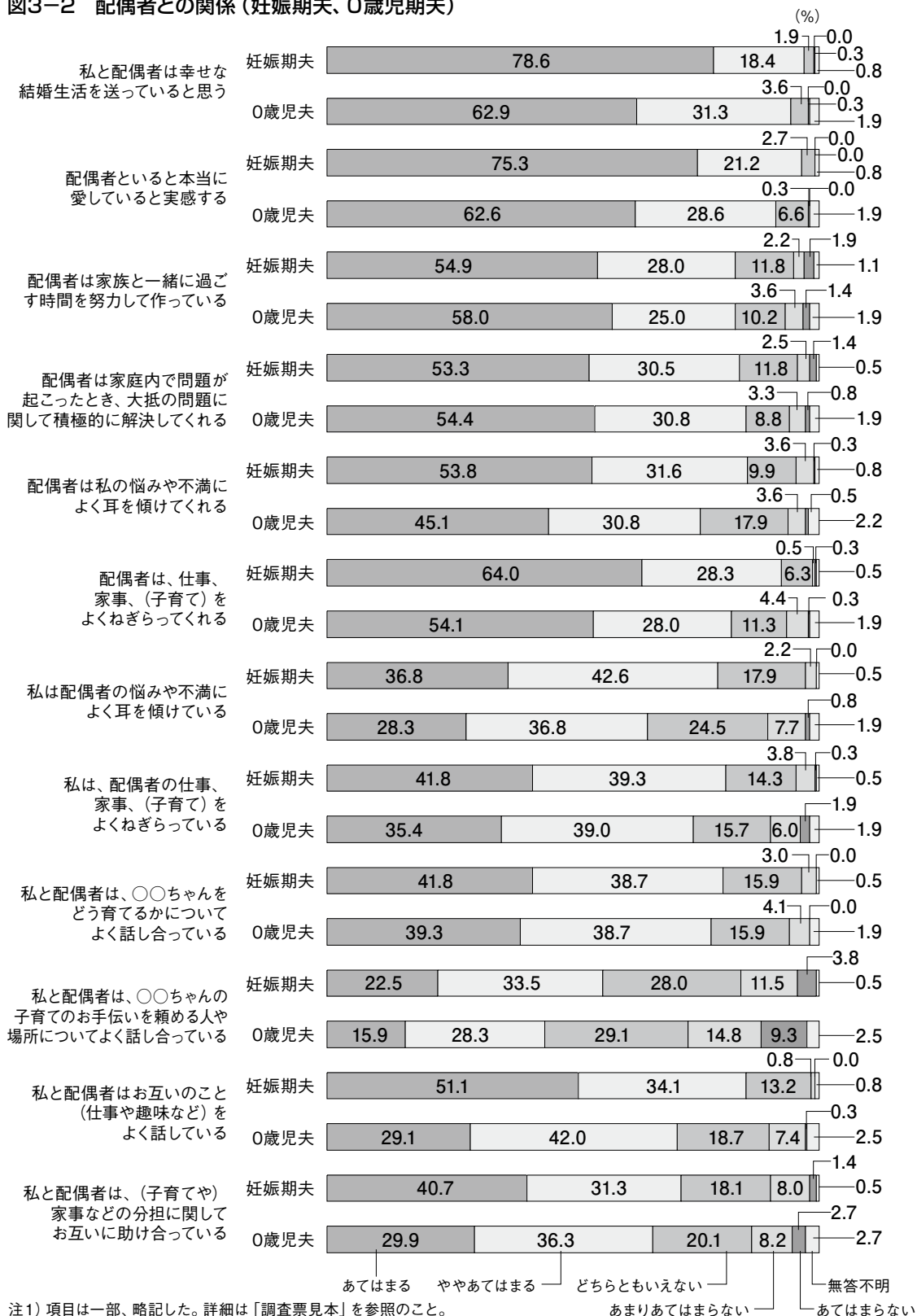
「あてはまる」で最も減少した項目は、「私と配偶者は、お互いのこと（仕事や趣味など）をよく話している」(22.0ポイント)であった。20ポイント以上減少したのはこの項目だけである。

他に10ポイント以上の差となったのは「配偶者といると本当に愛していると実感する」「配偶者と私は幸せな結婚生活を送っていると思う」「私と配偶者は、（子育てや）家事などの分担に関してお互いに助け合っている」であった。妊娠期から0歳児期への変化で差の大きい項目は、妻の回答で差のある項目と一致しているものが多い。この時期の夫婦関係の変化としては、妻と夫が同じような認識を持っていると思われる。しかし、夫の場合は、いずれの項目も減少の幅が妻に比べて小さい傾向にある。上記以外の項目は、10ポイント未満の差となっている。

0歳児期で「あてはまる」の割合が低いのは「私と配偶者は〇〇ちゃん（おなかの赤ちゃん）の子育てのお手伝いを頼める人や場所についてよく話し合っている」(15.9%)、「私は配偶者の悩みや不満によく耳を傾けている」(28.3%)、「私と配偶者は、お互いのこと（仕事や趣味など）をよく話している」(29.1%)であった。仕事や趣味といった子育て以外のことを話す機会は、51.1%から29.1%まで減少しており、最も割合が低いと同時に、最も減少幅が大きい項目となっている。夫にとって、妊娠期から0歳児期にかけて夫婦関係でもっとも大きく変化したと認識しているのがこの項目であると思われる。

また、妻から夫へのねぎらいについては、夫は「私の配偶者は、私の仕事・家事・（子育て）をよくねぎらってくれる」(54.1%)と妻のねぎらいを約半数が評価している。一方、妻の自己評価では「私は、配偶者の仕事・家事をよくねぎらっている」(34.9%)であり、妻の自分への評価よりも夫から妻への数値のほうが高い。夫から妻へのねぎらいでも同様の傾向となっており、妻・夫ともに、自分が配偶者にしたことよりも、配偶者が自分にくれたことを高く評価している傾向にある。

図3-2 配偶者との関係（妊娠期夫、0歳児期夫）



■配偶者への愛情

妻・夫ともに妊娠期から0歳児期にかけて配偶者への愛情は下がる傾向にある（図3-3）。「私は配偶者といると本当に愛していると実感する」という質問に対して「あてはまる」と回答した妻は、妊娠期では74.2%、0歳児期では42.3%で31.9ポイントの減少である。一方、夫では妊娠期75.3%、0歳児期では62.6%で12.7ポイントの減少であった。妻のほうが夫より多く減少している。

「配偶者といると本当に愛していると実感する」という質問に対して、妊娠期に「あてはまる」と回答した妻・夫のうち、0歳児期にも「あてはまる」と回答した妻・夫を愛情高維持群、「ややあてはまる」「どちらでもない」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した妻・夫を愛情変化群に分けたものが図3-4である。妻では、愛情高維持群は全体の39.6%、愛情変化群は34.6%であるのに対し、夫の場合は、愛情高維持群は約半数の55.5%、愛情変化群は18.7%であった。

■出産を決めた理由

妊娠・出産に至る状況と妻・夫の愛情の変化には、関係があるのだろうか。

表3-1は、出産を決めた理由（妻・夫）と愛情との関連を見たものである。17項目中、妻の愛情高維持群で多い順に10項目示した。愛情高維持群のほうが愛情変化群よりも10ポイント以上多かったのは、妻では「好きな人との子どもを持ちたかったから」「子どもがいると生活が豊かになり楽しくなると思ったから」の2項目であった。好きな人との子どもを持ちたいという思いや子どものいる生活に肯定的なイメージを持って出産することを決めた様子がうかがえる。愛情変化群のほうが10ポイント以上多く選択した項目は「年齢的にリミットを感じていたため」である。夫でも同様の傾向であり、愛情高維持群が10ポイント前後多かったのは、「好きな人との子どもを持ちたかったから」「子どもがいると生活が豊かになり楽しくなると思ったから」である。夫の愛情変化群では妻と同様に「年齢的にリミットを感じていたため」がより多く選択された（7.7ポイントの差）。

図3-3 配偶者といると本当に愛していると実感する

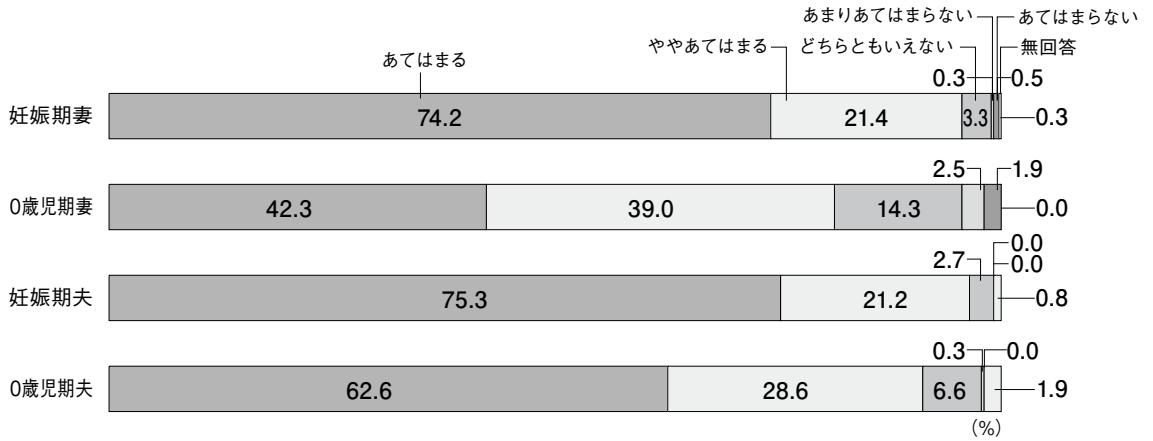
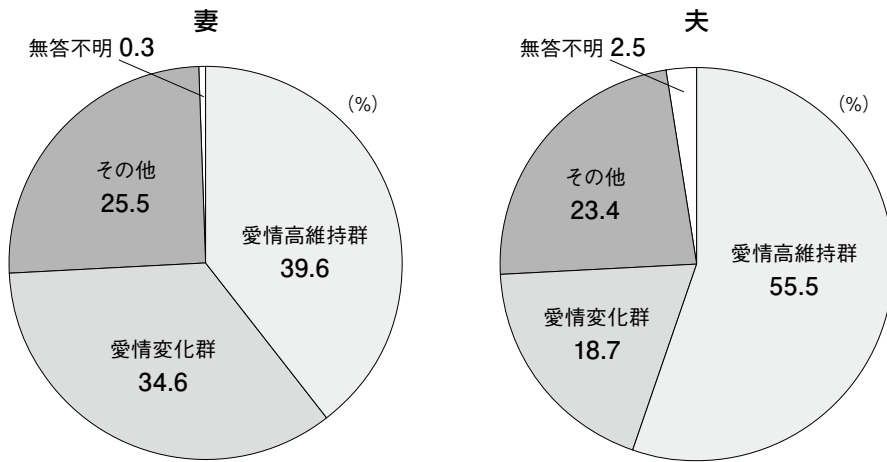


図3-4



注) 妊娠期に「配偶者といると本当に愛していると実感する」で「あてはまる」と回答した人を、0歳児期の回答により2つの群にした。

●愛情高維持群=0歳児期にも「あてはまる」と回答した人

●愛情変化群=0歳児期に「ややあてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した人

表3-1 出産を決めた理由

(%)

	妻		夫	
	愛情変化群 (126人)	愛情高維持群 (144人)	愛情変化群 (68人)	愛情高維持群 (202人)
好きな人との子どもを持ちたかったから	76.2	86.8	64.7	74.3
自分の子どもが欲しかったため	78.6	81.3	82.4	90.1
子どもがいると生活が豊かになり楽しくなると思ったから	49.2	66.0	52.9	63.9
結婚して子どもを持つことは自然なことだから	51.6	59.7	64.7	65.8
年齢的によいタイミングと感じたため	55.6	56.9	51.5	49.5
夫婦2人の生活を十分楽しんだから	19.0	27.1	11.8	10.4
年齢的にリミットを感じていたため	29.4	18.1	20.6	12.9
やりたいことはすべてやったため	9.5	17.4	5.9	2.0
自分よりも配偶者の方が子どもを欲しがっていたため	16.7	11.1	13.2	10.9
子どもは夫婦関係を安定させるため	7.1	10.4	11.8	11.4

*17項目中妻の愛情高維持群で多い順に10項目を明示

■妊娠期の過ごし方

図3-5、図3-6は、妻の妊娠中の過ごし方と愛情の変化の関連を見たものである。「私の配偶者は家族と一緒に過ごす時間を努力して作っている」「私と配偶者は、子育て以外のお互いのこと（仕事や趣味など）をよく話している」「私と配偶者はおなかの赤ちゃんをどう育てるかについてよく話し合っている」の3項目で、妻は、愛情高維持群と愛情変化群の「あてはまる」の数値で比べると愛情高維持群の割合が10ポイント以上高くなっている。夫も妻と同様の傾向であり、愛情高維持群のほうが割合が高くなっているが、数値の差は妻よりも若干少ない傾向にある。夫婦で共に過ごす時間を積極的に作ったり、子どものことやお互いの仕事や趣味などを話し、夫婦の理解を深めることが、出産後の夫婦の愛情の変化に関連しているようである。また、「生まれてくる赤ちゃんのことを想像するとわくわくする」では、妻も夫も2つの群に差はあるものの、愛情高維持群は約8割以上、愛情変化群は6割以上となっており、生まれてくる子どもを期待し待っている様子がうかがえる。行動面では、「育児書を読むなど、子育て情報を集めた」（図3-7）で、夫は「しばしばある」「時々ある」「たまにある」を合わせて、愛情高維持群では86.1%、愛情変化群では75.0%であった。妻は「しばしばある」で約5割を超えている。

立ち会い出産をした夫婦について見てみよう。今回、立ち会い出産を「した」と回答した夫は、60.2%、「したかったけれどできなかった」が22.5%、「しようと思わなかったし、しなかった」が14.0%であった。図3-8は立ち会い出産を「した」人の数値である。妻では、立ち会い出産をした人は、愛情高維持群で割合が若干高くなっている（65.3%）。夫では、立ち会い出産との関連は見られなかった。

図3-5 妊娠中の過ごし方（妻）

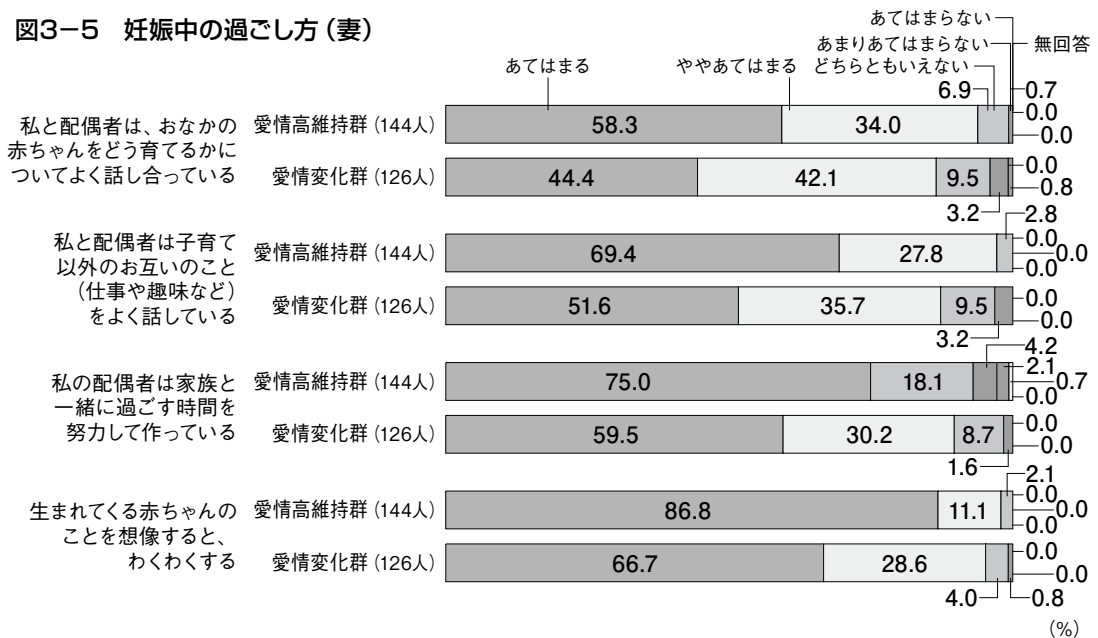


図3-6 妻が妊娠中の過ごし方(夫)

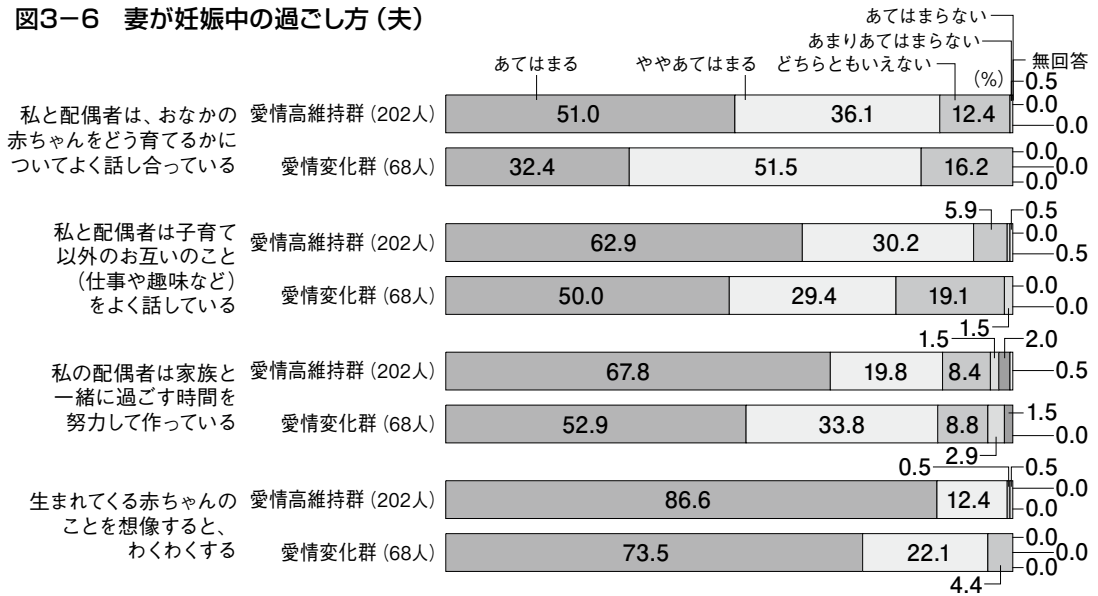


図3-7 育児書を読むなど子育て情報を集めた(0歳児期データ)

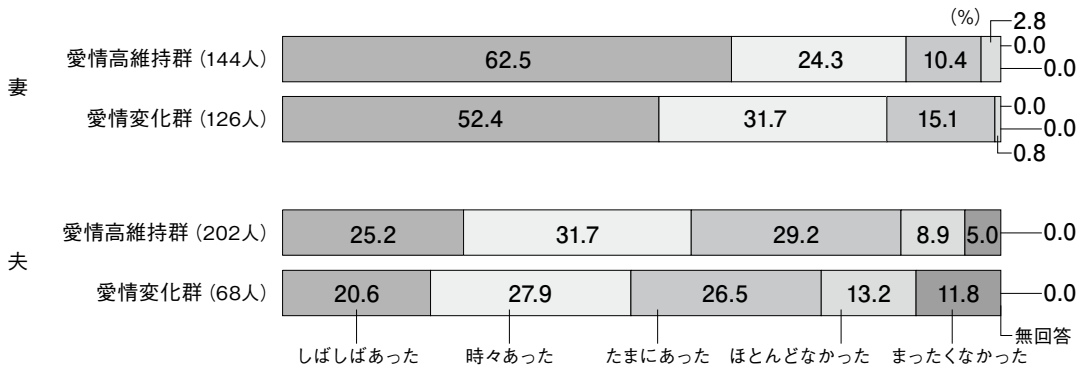
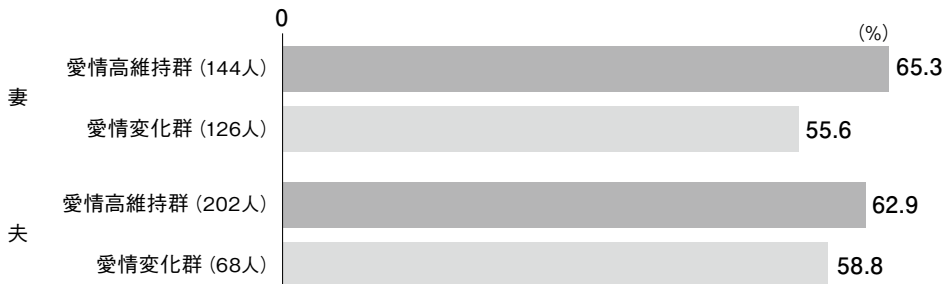


図3-8 立ち会い出産



※立ち会い出産を「した」と回答した割合

■子育てとの関係

配偶者との関係を見ると、「私の配偶者は家族と過ごす時間を努力して作っている」、「私の配偶者は私の仕事、家事、子育てをよくねぎらってくれる」という項目で、愛情高維持群の妻は、愛情変化群の妻に比べていずれも「あてはまる」で高い数値となっている（図3-9、図3-10）。妊娠期と同様に家族との時間を努力して作ったり、また、妻をねぎらうといった夫の行動が妻の愛情の変化と関連している。グラフに示してはいないが、夫でも同様の傾向であった。

また、夫の子どもへのかかわり方では、妻が愛情高維持群の夫は、「○○ちゃんと遊ぶ」という質問に対して「ほとんど毎日する」と回答する割合が、妻が愛情変化群である夫よりも高くなっている。また「子どもがぐずったとき落ち着かせる」という質問に対して妻が愛情変化群である夫のほうが「ほとんどしない」と回答する割合が高かった。妻が愛情高維持群である夫のほうが、子どもと遊ぶ割合が高く、また子どもがぐずったときに落ち着かせるといったかかわりの割合も、より高い傾向にある（図3-11、図3-12）。

■子育て意識と愛情の変化

子育て意識と配偶者への愛情との関連を見た（図3-13、図3-14）。妻・夫ともに、2つの愛情グループで比較したところ、愛情高維持群のほうが愛情変化群よりも子育てに肯定的な数値が高い傾向にある。「子どもを育てることに充実感を味わっている」「子育てが楽しいと心から思う」では、愛情高維持群のほうが割合が高かった。妻は「あてはまる」で10～20ポイント弱の差となっており、夫は20ポイント以上の差がある。また「子育てが重荷に感じられる」では、妻・夫ともに「あてはまらない」で20ポイント程度の差が見られた。愛情高維持群のほうが子育てを重荷と感じる割合が低かった。配偶者に対する愛情は、子育て意識にも関連しているようだ。

図3-9 私の配偶者は家族と一緒に過ごす時間を努力して作っている(妻)

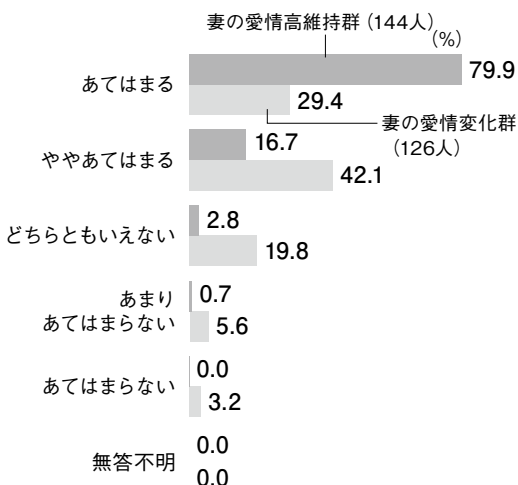


図3-10 私の配偶者は、私の仕事、家事、子育てをよくねぎらってくれる(妻)

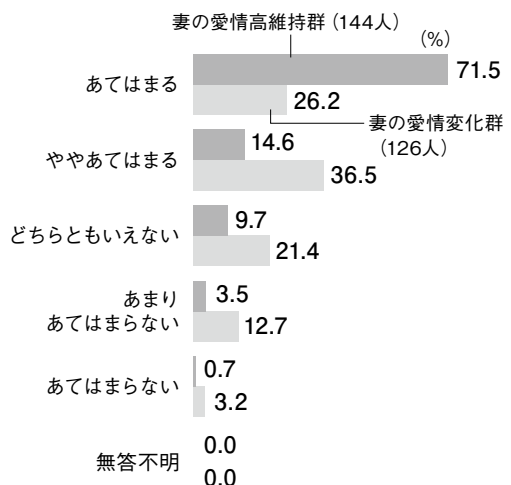


図3-11 ○○ちゃんと遊ぶ(夫)

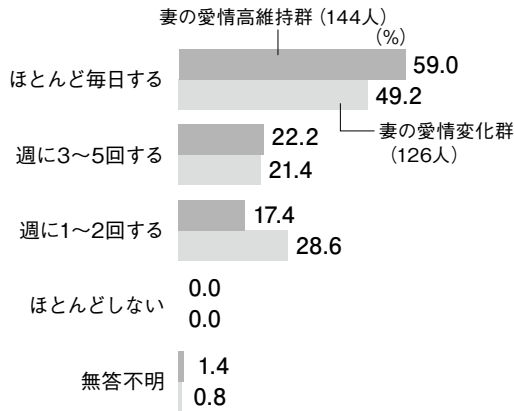


図3-12 ○○ちゃんがぐずったとき 落ち着かせる(夫)

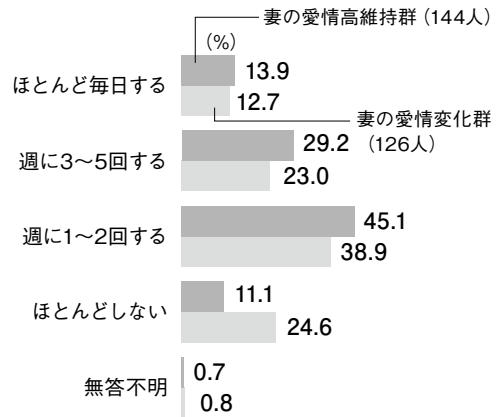


図3-13 子育て意識(妻)

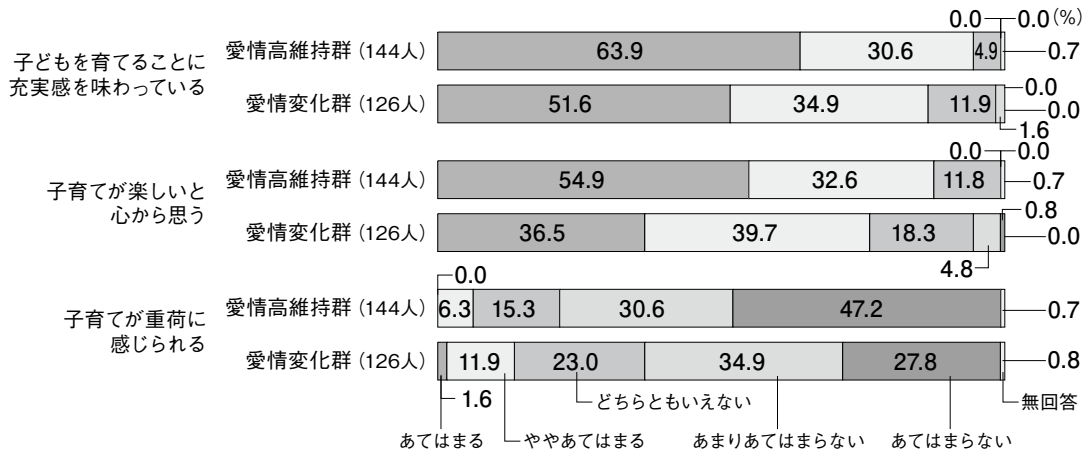


図3-14 子育て意識(夫)

